

地域再生 とまちづくり

—各都市が目指すものは

<第16回>

を果たしてきたが、近年の国際的な産業構造の変化でその依存度は長く低下傾向にあるなど、構造転換は重要な問題である。市の収要な税収を支えている水島地区の今後の

市も同様に過疎化は深刻である。一方で早島町は大都市部に挟まれ人口は微増状態である（中ホームページより）



岡山県倉敷市・水島地区の構造転換が重要課題

新産業都市の優等生

倉敷市は、岡山県の南部に位置し、水島臨海工業地帯を擁し、石油化学コンビナートに代表される重化学工業の都市で昭和期は「新産業都市の優等生」と讃えられ発展を続けてきた。その後、国内市場の成熟化と産業構造の変化に合わせて海外との競争力確保のため設備の集約、廃棄、転換を進め、新しい水島臨海工業地帯へ脱皮を図っている。エネルギー副産物として大量に製造され、自動車で注目されている「水素」エネルギーへ対象を広げ、倉敷市が中心となって、県内では初となる水素ステーション整備を進め、17年春の稼働を目指している。

市税収で水島は過去、鉄鋼や自動車生産の好調にけん引され、雇用面でも大きな貢献をしており、これを活用すべく、

岡山県倉敷市・水

支える大きな源でもある。一方で、密接に連携してきた中小工場があり、後継者や資金面の難など、転換は容易ではないまま推移している。

人口は約48万人。市域は平成の大合併で拡大し、過疎高齢化も他市に比べそのエリアは狭いものの、中心市街地への指向性が強まっている中で、山間部や高台地区を抱え

分特色がある。
倉敷市の人団
は微増、横ばい
だが、多くの団
体は過疎と高齢
化が深刻な中山
間地を抱えてい
る。連携する取
り組みとして、①圏域全体
経済成長のけん引(経済戦略
企業誘致、観光振興など)、
高梁川流域の位置図(倉
敷市、高梁川、

通し、東西の交通軸が新しく生まれたほか、JR倉敷駅周辺連続立体交差（鉄道高架化）事業の推進がある。3つの取り組みは、いざも愁眉の課題解決と言える。

課題は多い。

②高次の都市機能の集積化（高度医療の提供、中心点整備、広域交通網の整備

容で長く続いた政黨の出
自治体単独ではなかなか踏
出せない内容をこの試みで

5年間で成果検証

またいなほは中心となる市

を拠点都市に関係9自治体合計10団体からなる「高梁川流域圏」が結成され、14年に経済成長や文化発展を目指す国のモデル事業として採択された。高梁川流域圏

③ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上（生活機能の化策、ネットワーク強化など）が掲げられている。

現したいとの意気込みがある。だが、具体的戦術などと様々な利害や調整が求められ、理想論だけではうまくまないだけに、中心となる會市にリーダーシップが大き建こなつていいだろう。

高梁川流域圏ビジョン 連携して成長模索

全国に先駆けて「連携中枢都市圏」として、倉敷市を拠点都市に関係9自治体の合計10団体からなる「高梁川流域圏」が結成され、14年に経済成長や文化発信を目指す国のモデル事業として採択された。高梁川流域7市3町村は倉敷のほか、笠岡、新見、高梁、緑、社、井原、浅口の各市と呉市、矢掛、里庄の各町である。笠岡市は島嶼部を抱える典型的な過疎高齢化の問題を有している。県北の新見市、その南の高梁市、井原市、

第策定した「高梁川流域長戦略ビジョン」では「15度から5年間を1区切り」し、一定の政策効果の検証求めている。不動産と関わるのあるインフラ関連では、「倉敷大橋」が16年1月に

（日本不動産研究所所長）
所、不動産鑑定士・栗岡義
らかである。
うも財源を中期にわたつて
う準備し、それぞれの自治
のコンセンサスをどう得て
くかにかかっていることは
れども、いかでいくたゞ
鏡など見ていくたゞ

A black and white photograph showing a long, straight, paved road or path leading towards a cluster of buildings, possibly a campsite or resort, at the top of a hill. The road is flanked by grassy fields and trees. The buildings are arranged in a row, with some smaller structures in front. The sky is clear and blue.

新しい工業地帯へ脱皮を図る水島コンビナート